

(第5回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

- 日 時 平成30年9月13日(木) 午後7時00分から午後9時00分まで
- 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室
- 出席者 委員(13名)
 - 青野 信樹 委員 阿蘇 浩造 委員 井上 康 委員
 - 宇佐 裕次 委員 岡本 将広 委員 川上 善秋 委員
 - 白石 澄子 委員 田口 勝敏 委員 處 淳子 委員
 - 野島 貴子 委員 野田ゆり子 委員 坂東 君良 委員
 - 渡部 克彦 委員
- 事務局(4名)
 - 田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)
 - 井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)
 - 戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)
 - 竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)
- 欠席者 黒河 幸子 委員 田口 勝三 委員
- 会次第
 - 1 開会
 - 2 委員長挨拶
 - 3 議題
 - (1) 報告書の作成に向けて
 - (2) その他
 - 4 閉会

○ 議題審議要旨

委員長	それでは、事務局がまとめた資料に基づいて、これまでに検討した内容を議論していきたい。
委員長	まず、地域コミュニティの現状と課題について、意見はないか。
宇佐委員	地域の課題を解決する能力を持った人材が少ないということも地域の課題であると思う。
渡部委員	地域コミュニティを活性化させる方法がきちんと見えていないということも課題ではないか。例えば、1,000人、2,000人を集めることができるようなイベントを考えることができる人材が果たして地域に何人いるのかと考えたときに、足りていないと思う。 西条市がそのようなことをしたいのかがわからないということもあるが、地域で大きなイベントを企画する人材が少ない。南予地方では、そういったイベントをかなりやっているようだ。
委員長	新たに生まれるものが少ないということか。
渡部委員	地域コミュニティだけの課題ということではないかもしれないが、そのような気がする。
青野委員	地域という言葉がたくさん出てくるが、今ある地域、班や組というものが、その範囲では、やっていけなくなってきた。今までの地域ではなく、もっと大きな範囲で再編成しなければ、やっていけない状況が目の前にきている。そういったことも見直していかなければならない。
委員長	次に、広域コミュニティに期待される役割について、意見はないか。
處委員	地域内の協議機能を充実させるとあるが、既成の概念で考えると新しい出発点にならないので、例えば、市内では大町地区や橘地区が先進的に取り組んでいるが、そういった取組や県外の取組なども見学したり、交流、知り合いになるという中で新たな発見もある。 新しいことを生み出すことが難しい中で、他の地域の取組が必ずしも自らの地域に当てはまるというわけではないが、このようなやり方なら自分たちも頑張れるということもある。3年や4年という長期のスパンで考えていかなければならない。
野田委員	多様な世代が活躍できる場を提供するとあるが、現状では、何をするにしても参加するのは決まった方ばかりである。できるだけ多くの方に参加してもらうために、告知方法など、どのようにすればいいのかを考えなければいけないと思う。

渡部委員	<p>広域コミュニティに期待される役割として、地元企業との連携というものがあるが、企業は、組織的にも人間的にも力があるところなので、企業に期待を寄せるという意味で、もっと強調してもらいたい。</p>
宇佐委員	<p>広域コミュニティに期待される役割は、地域コミュニティ（狭域）の運営管理だと思う。地域コミュニティ（狭域）では、なかなか人材が足りていない状況もあると思うので、人材の育成や充実というものから、地域コミュニティ（狭域）での課題に対する手助けなど。</p> <p>地域コミュニティ（狭域）で出てきた課題をしっかりと抽出し、出てきた課題に対して広域コミュニティの持っている力をもって解決していくということが大事だと考える。広域コミュニティが地域コミュニティ（狭域）をしっかりと運営管理していくというような立ち位置が大事なのではないかと思う。上下関係というわけではないが、広域コミュニティが一つ上で力も能力も持って、地元企業の手も活用しながら、地域の課題を解決していくことが大事であると思う。</p>
野島委員	<p>広域コミュニティに期待される役割ということなので、期待という言葉に期待して、これまでに出来なかったこと、これまでと違う枠組みを創造するというのを打ち出してもらいたい。安心して暮らせる地域というものは、理想を掲げ、自分たちで話し合い、試行錯誤しながら辿り着くものだと思うので、今までの枠組みの中ではなく、しっかりと新しい枠組みを各地域のコミュニティで自ら作りあげるといふところを打ち出してもらいたい。</p>
委員長	<p>広域コミュニティに期待される役割について、他にないか。</p>
宇佐委員	<p>地域コミュニティ（狭域）の課題に対して、広域コミュニティで解決するというのをイメージしている。地域で出て来る小さな課題はすごく大事にしながらも、地域コミュニティ（狭域）で出て来る課題は、地域コミュニティ（狭域）では解決できないことが多いと思うので、それは広域コミュニティで解決していくというイメージである。</p>
委員長	<p>次に、広域コミュニティのエリアについて、何か意見はあるか。</p>
宇佐委員	<p>広域コミュニティのエリアについては、小学校区くらいの小さな広域コミュニティから中学校区、さらに大きな広域コミュニティというように階層的に広域コミュニティがあり、連携して地域課題の解決にあたるというような、地域課題を解決するための下からの階</p>

	層構造が良いと考える。
委員長	<p>数は増えるかもしれないが、ケースバイケースで地域ごとにあつた、地域の実情に応じた広域コミュニティの作り方があればよいと思う。</p> <p>次に、広域コミュニティの組織構成について何か意見はあるか。</p>
宇佐委員	<p>地元の高校の先生など、学校の先生に来てもらうのはどうか。課題解決に向けて、広域コミュニティは、どうしても力を持つ必要があるので、西条市は、愛媛大学とも連携していることだし、年に数回、大学の先生に来てもらって力を育てていくべき。もちろん、櫻井先生にも来ていただいて。</p>
處委員	<p>愛媛大学が話に出たが、愛媛大学には、社会共創学部があり、大学生の中にも地域づくりを目指している方がいる。高いところから客観的に地域を見ることが出来る、企業もそういう意味では同じかもしれないが、大学教授や学生も含め、地域の方だけで組織を構成しない方が良いのかもしれない。</p>
宇佐委員	<p>他の地域コミュニティの会長にも入ってもらえば、地域同士のつながりという面で良いのではないか。</p>
野島委員	<p>先進地でなくても他地域の事例は、すごく参考になると思う。</p>
委員長	<p>他にないか。</p> <p>では、次に広域コミュニティの拠点について、意見はないか。</p>
宇佐委員	<p>資料に記載している事例に追加するという形で、学校というものも入れてみてはどうか。</p>
委員長	<p>他にないか。</p> <p>次に、広域コミュニティの事務を担う人材について、意見はないか。</p>
渡部委員	<p>これまでに、若いというキーワードがたくさん出ているが、事務を担う人材に対し、若いというキーワードとして入れた方がよいと思う。</p>
宇佐委員	<p>コーディネートということで、重複するかもしれないが、他の地域コミュニティとつなぐ人、バイパス役、自らの地域コミュニティの課題はしっかり見ながらも、課題解決するために、他の地域コミュニティとどんどん繋げていくという役割も必要だと思う。</p>
處委員	<p>事務局を1名置く必要がない地域もあるかもしれないし、毎日、事務があるということもないだろうから、複数の事務局を兼任する方法もあると思う。また、複数の事務局を兼任することで、お互い</p>

	の良いところや、弱いポイントというものをつかめると考える。
宇佐委員	<p>私は、事務を担う方は、キーマンだと思っている。課題を解決したり、そのための仕組みをつくったり、運営管理するという意味では、サポートやコーディネーターという役割より、もっと高いものが求められると思う。地域に対する熱意も大事であるが、能力のある、しっかりとした人材を配置しないとこれからの地域課題の解決ではなく、慣習や風習をそのまま続けていくだけになってしまう気がする。</p> <p>実際に課題に直面した際に、解決に向けたプロセスを思い描き、地域のみなさんと一緒にやっていける方が相応しいと思う。</p>
事務局	他になければ、次に広域コミュニティに対する行政からの支援について意見はないか。
青野委員	地域の要望に応じて、市職員や専門家を派遣するというのは、どのようなことをイメージしているのか。
事務局	例えば、地域で会議があるときに市職員に来て欲しいという場合や、専門家を地域に招きたいという要望に対して、派遣するといった人的な支援をイメージしている。
宇佐委員	西条市が地域をどのようにしたいのかということがわかるように、情報を細かくわかり易く提示してほしい。また、こういう場合は、こういった補助金がある、このような課題を解決するために、このような補助金を用意しているという情報があれば、団体や企業は、財政的にもっと動きやすくなると思う。
事務局	必要な情報を提供する支援と考えてよいか。
宇佐委員	簡単に言えば、そういうことである。
處委員	補助金というものは、中々、扱いが難しく、地域で自由な発想で使って良いとなると、だんじりや、PTA バレーのユニホームを買おうという発想になってしまうかもしれない。それ自体が悪いということではないが、地域課題の解決というゴールに近づくために、補助金を上手く活用するためのプランナーのような存在が必要だと思う。ノウハウを持った市の職員によるアドバイスなどになるかもしれないが、地域で予算化する際に地域に入って、方向修正してくれるような方がいれば、補助金が生きてくるのではないか。
宇佐委員	行政が地域コミュニティに対して、どのようにしたいかというビジョンを作成し、予算をつけるときには、具体的なプロセスをもって予算をつけるという仕組みを持ってもらいたい。

野島委員	<p>行政の方に、色々とアドバイスをいただいたり、助けてもらうことも多いのだが、担当は、そのプロジェクトのことをよく知っているが、他課の職員は、全く知らないということが多い。</p> <p>市の職員も地域の住民なのだから、皆で参加しろとまでは言わないが、せめて市の大きなプロジェクトは、職員間で情報共有し、皆に知ってもらいたい。</p> <p>市民が頑張るのはもちろんであるが、市職員も地域の住民であるという意識を醸成していってもらえたら、もっと違ってくるように思う。</p>
川上委員	<p>行政はタテ割りの状態であり、地域のことは、方々に相談しに行かなければならない。地域課のような部署をつくって、そこで一本化して、地域の出来事を地域担当者が全部集約して、内容によって他課に振っていく。なおかつ、そこに出身地別など、ある程度の地域に区割りして、地域の職員が参加していくような仕組みにすればという思いがある。</p> <p>もう一つ、補助金についてだが、最初はやれることを簡単にやっていくが、やっぱりお金で行き詰まる。ポスターをつくってもそれをどうやって量産するか、その予算をどう工面するか。そうになると結局、自治会に頼んだり、あるいは地域の企業に頼んだりする。地域を活性化するためにやっているのに、なぜ一般の人からスポンサーを募らないといけないのかとすごく疑問に感じている。そうした時に補助金の効果的な使い方を指導できる、支援できる人がいればと思う。市の職員が持つノウハウを地域は活用したいだろうし、それで地域が盛り上がればと思っている。</p>
田口委員	<p>企業という社報のようなものが、市役所にもあればと思うが。</p>
事務局	<p>システム的には、庁内 LAN や議会・予算資料等として、職員に情報がまわってくるが、どこまで読み込んで、頭に入れるかというのは、職員しだいというところである。</p>
委員長	<p>次の地域コミュニティに関する市への要望事項というテーマに入っているが、何か意見はあるか。</p>
宇佐委員	<p>地域コミュニティだけに関わらず、市の職員には、何かを担う場合に具体的な青写真をしっかりと描いてもらって、熱意をもって取り組んでいただきたい。ありきたりな青写真ではなくて、西条市がこのようになったらいいと熱弁をふるってくれるような方に担当になってもらいたい。</p>

	あと、地域の課題を解決するために必要なお金であれば、地域から負担してもらってもよいと考える。
事務局	受益者負担を求めるといふことか。
宇佐委員	西条市全体ではなく、その地域にしかない課題があればということだが、この地域の課題だからといってのはあっても良いのではないか。大きな金額でなくても、それが10円や100円でも、自分がお金を出すなら、興味を持つだろうし、地域に参画する方も増えてくると思う。 楽しいことをやりましょうというわけではないし、明確に見える課題を解決するのであれば、色々な手法や能力のある方に引っ張ってってもらいたい。
委員長	1名や2名、そんな方がいれば地域が変わるかもしれない。
宇佐委員	そんな結果を出そうと青写真が描ける職員が行政に1名、2名いれば変わると思う。
處委員	課題がいっぱいある中で、一つ、二つと地域ごとに優先順位をつけて絞っていかなければいけない。そこに労力と人材を投入することで、前例となり、プロフェッショナルが生まれてくる。
委員長	他に何か意見などはないか。
青野委員	地域コミュニティについて検討してきたが、これは、地域の形を変えていこうとするような、すごく大きな取組であると思う。 これはかなり強かに市民にPRしていかないと、何をやるかとしているのか分からないということになると思う。 それは、行政しかできないし、地域が動き始めるまで、行政の方がかなりの力をいれて啓発活動なり組織づくりなりに関わっていかなければならない。 本気になってやっていくのだということをして市職員全員がイメージして動いていくことが必要だと思う。市民に周知して、しかも動いてもらうにはかなりのエネルギーが必要である、それをどのように進めていくかという計画が必要であると考えている。
井上委員	自分の地域について考えた時に、地域には47の自治会があり、7～8軒で1つの自治会を構成しているところもある。会長も1年ごとに交代する方が多い中で、地域の課題が見えてこない。
阿蘇委員	- 橘地区の取組状況を紹介 -
坂東委員	- 大町地区の取組状況を紹介 -
委員長	他に何かないか。

渡部委員	<p>地域コミュニティとは直接関係ないかもしれないが、何でもいいから、世界一を目指した取り組みを考えていく必要がある。それぐらいでないと合併後の西条市は、ひとつになれないのではないか。</p> <p>そういった壮大なこと、インパクトのあることを市が打ち出し、地域コミュニティが追随するような仕組みをつくっていかなければならない。</p>
委員長	<p>他にないか。以上で本日の議題としていたものがすべて終了しましたが、最後に事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>— 事務連絡 —</p>
委員長	<p>それでは、以上で本日の委員会を閉会する。</p>
	<p style="text-align: right;">「了」</p>